

スイセン(日本水仙)  
*Narcissus tazetta* var. *chinensis*  
 (ヒガンバナ科)

りん茎で繁殖する球根植物で、西日本各地の沿岸部に自生がみられる、花茎先端に数花をつける。花被は乳白色で、雄ずい由来の濃い黄色の副花冠を生じる。移植すると副花冠の形が乱れるので、通常据置き栽培する。強い芳香を発する。生け花花材として、正月を中心に利用される。はかまをつけて花茎と葉が離れないようにして出荷される。高温下では著しく日持ちが悪くなり、10℃では通常2週間以上日持ちするが、20℃では1週間程度である。糖処理は小花の萎れを抑制する。

1) 品質評価基準

項目	判定基準	備考
小花の萎れ・褐変	A: 発生なし B: 第1花が萎れる 全小花の C: 1/3が老化する D: 1/2以上が老化する	小花の老化は、A: 萎れなし、B: 花被の周縁部がわずかに萎れる(巻き込む)、C: 花被全体が透き通り、花被周縁部でしおれる。D: 花被周縁部が褐変するとして判定する。C、Dの小花を老化したと判定する。
茎葉の黄変	A: 黄変なし B: わずかに黄変する C: 茎葉全体に黄変が広がる D: 茎葉全体が激しく黄変する	ジベレリンを前処理すると黄変が抑制される。
軟弱茎	A: 直立する B: ややしなる C: しなる D: 折れる	
その他	不開花など。	

2) 留意点

評価温度を20℃とする。

品質評価開始時点での小花数および経時的に未開花数、開花数、老化数を測定する。

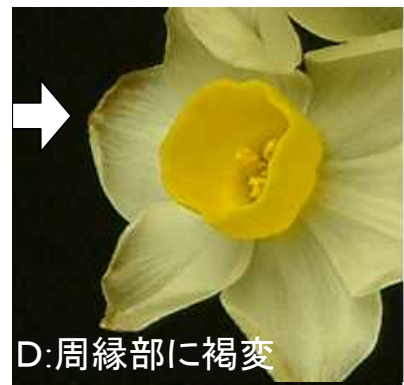
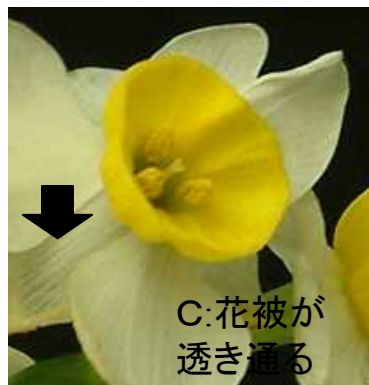
通常小花はすべて開花する。

前処理はほとんど行われていない。

### 3) 開花



### 4) チェック事項



小花の萎れ・褐変

茎葉の黄変